

クラス	TU312	担当教員	山本 敏郎
テーマ	子どもたちの生きづらさと向き合う教育実践をつくる		
著書・論文 研究課題等	○『スクールソーシャルワーカーの学校理解』 ミネルヴァ書房 2016年 ○『学校教育と生活指導の創造』 学文社 2015年 ○『新しい時代の生活指導』 有斐閣 2014年 ○『教育改革と21世紀の学校イメージ』 いしかわ県民教育文化センター 2000年 ○『学校と教室のポリティクス』 フォーラムA 2004年 ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」 日本生活指導学会『生活指導研究』28号 エイデル研究所 2011年。		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：生きづらさ、貧困、生活指導、当事者性のある学び 生活者としての子ども etc			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>生きづらさをかかえて苦しんでいる子どもたちが <u>生きる勇気と希望を紡ぎだせるようにどう支援できるのか、生きる支えとなる学習をどうつくることができるのか</u>を研究したい人がエントリーしてください。</p> <p>レディメイドの教科内容や指導マニュアルを使って、「うまく」子どもに教えたり指導することが教育だとは考えていません。そんな「うまい」話はありません。教育とは、<u>学校用の児童・生徒</u>を演じさせることではなくて、<u>生活者</u>としての子どもたちの現実との格闘を支えることだと考えるからです。</p> <p>このゼミでは、こうした実践をしている全国の教師や福祉関係者たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、教育実践をつくる力を身につけていきます。</p> <p>3年生のときは、生きづらさに向き合っている教育実践記録を検討したり、生きづらさと向き合うための理論（教育学に限らず、社会学、政治学、哲学も視野に入れて）を学びます。4年生では研究報告を順番に行います。年3回（4月、8月、11月）程度、合宿を予定しています。また、FACEBOOKやLINEにゼミのページを作っていますので、3年生同士、3・4年生間で、意見交流や情報交換も行います。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>① 自分が2年間 <u>何を学びたいか</u>をじっくり考えてください。<u>自分が研究したいこと</u>があるかどうかをもっとも重要なことです。履修カルテの文献も利用するなど、<u>少し勉強してから</u>相談に来てください。</p> <p>② 知的な人間になる努力を厭わない人が来てください。卒業するころには、間違いなく、「<u>知る—疑う（問う）—確かめる</u>」力がみにつき、学ぶことが楽しいと感じることができるようになります（歴代卒業生がそう言って卒業しているので間違いのないでしょう）。</p> <p>③ 学びの空洞化・商品化・ゲーム化から抜け出したいと思っている人が来て下さい。</p> <p>④ 今年も採用試験の結果は絶好調でしたが、ゼミで採用試験対策はやりません（学科の方針です）。採用試験目当ての人は来ないでください。</p> <p>⑤ ゼミファーストで学生生活を設計してください。自分のことを「生徒」(pupil)と呼ぶ人もいたり、あなたたちのことを「生徒」と呼ぶ大人もいるようですが、このゼミでは「<u>学生</u>」(student)であることを求めます。ですから、あなたたちはわたしを teacher と扱うのではなくて <b>professor</b>として付き合ってください。細かく管理することはしませんが、バイトファーストで <u>ゼミを軽視すると途中で追放する</u> こともあります。</p> <p>⑥ 参考までに、今4年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。          ○能力主義社会からの脱却に関する研究、○いじめ加害者の心理に関する研究、○教育と福祉の関係性に関する考察、○教育における能力に応じた平等に関する研究、○思春期における身体の変化と不登校に関する研究、○ヘイトに関する研究、○平和教育に関する研究、○人間にとって動物とは何かに関する一考察、○キャラを形成して生きる子どもたちの研究、○障害のある子どもをもつ親の障害受容に関する研究</p>			